

ヤリイカ

生態的特徴等

【生態】茨城県沿岸域に分布するヤリイカは、常磐海域を中心に三陸から房総海域に分布する系群で、春～夏に生まれたあと、1年をかけて成長し、翌春に産卵して一生を終える。本県沿岸域における主な生息水深は50～250mで、成長段階に適した水温帯の海域を求めて、南北・深浅回遊すると考えられている。本県沿岸域では、ヤリイカが3～6月の産卵期に浅海域に集まり好漁場が形成される。大きさは外套長（胴の部分の長さ）で12月に約15cm、3月に約20cmとなり、産卵盛期の5月に出現する大型雄は30cm以上になる（図1）。餌は主にカイアシ類やアミ類で、大型個体は小魚を食べる。

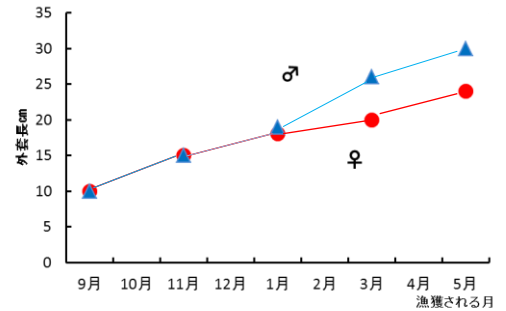


図1 ヤリイカの成長

【漁法と盛漁期】主に底曳網で漁獲され、平潟、大津、久慈、那珂湊漁港で水揚げが多い。盛漁期は12月～翌年4月。

【利用】夏のスルメイカに対し、冬のヤリイカとして利用され、小ぶりなものは煮物などで、大きなものは刺身で食される。

資源水準は中位、動向は横ばい

（漁獲量）ヤリイカの生態的特徴（春に産まれたものを冬から翌年の春にかけて漁獲する）を考慮し、暦年（1～12月）ではなく底曳網の漁期（9月～翌年6月）で漁獲量を集計した。H23～26年漁期は896～2,240トン、H27～29年漁期は402～570トン、H30～R3年漁期は682～1,305トンで推移し、R4年漁期は472トンとなった（図2）。

（水準と動向）資源水準は過去の底曳網の漁獲量から計算したCPUE (kg/隻・日) から「中位」、動向は直近5漁期のCPUEの傾向から「横ばい」とした（図3）。

水準



動向

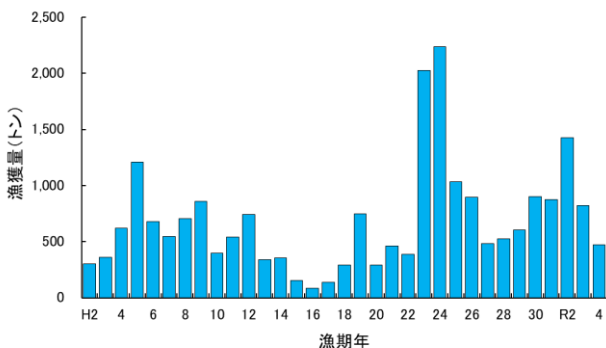
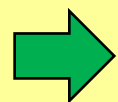


図2 ヤリイカ漁獲量（水試システム、属人、底曳網）

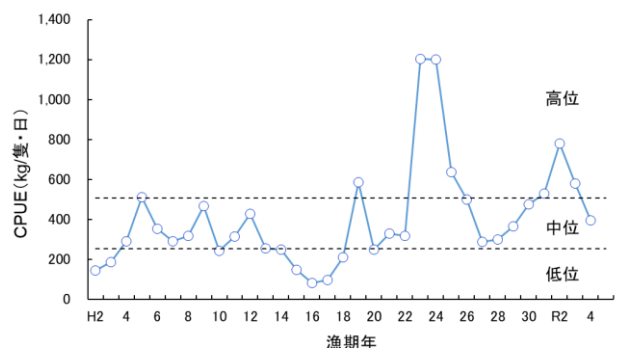


図3 ヤリイカ CPUE（底曳網）

【全国の漁獲動向】

全国的に分布する魚種だが、近年は日本南西部よりも北東部の漁獲量が増えている。茨城県以外では、千葉県（銚子）、宮城県（石巻）などでも水揚げされる。